



ペンギンなどのように、飛べない鳥がいるのはなぜ

飛ぶ必要がないから飛べなくなった

ペンギンは空を飛べません。鳥のつばさが、水にもぐったり、泳ぐのに便利なような形に変わってしまっているからです。ペンギンは、空を飛ぶかわりに、水の中を飛ぶように泳げる体つきに変化してきたのです。鳥は空を飛ぶために、骨の中を空どうにするなど、体を軽くするくふうをしてきました。ペンギンの骨もそうになっています。しかし、水の中で活動するようになってからは、すばやく泳ぐための筋肉や、冷たい水から体を保護する脂肪がたくさんついて、体重が重くなっています。

敵がない所にいる鳥は飛ばなくなる

ヤンバルクイナなどのクイナの仲間は、飛ぶものと飛ばないものがあります。すんでいる場所を比べると、ヤマネコなどの敵がない島にいるクイナは飛べなくなっています。敵のいない場所にすみついた鳥は、すごいエネルギーを使う「飛ぶ」ということをやめたようです。そのほうが、生きるのにつごうがよいのです。

飛ぶことをやめた鳥

鳥は、空をうまく飛べるように、進化してきました。その飛ぶという特徴をすてた鳥が、ペンギン以外にもいます。地上を走ることで体つきを変えた仲間の代表が、ダチョウです。時速60キロメートルもの速さで走るダチョウは、体重が約115キログラム、背だけは2メートルにもなります。同じ仲間にはエミュウ、ヒクイドリなどがいます。飛ぶことをやめたかわりに、大きくて重い体、強く速い足をもつようになりました。同じ仲間、今はもう絶滅したエピオルニス、化石から、背たけが3メートル以上もあり、卵は10キログラムもあった、史上最大の鳥といわれています。(監修・今泉 忠明)

